

富山市定例市長記者会見（令和3年11月1日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。

お疲れのところとは思いますが、定例記者会見の説明をさっそく始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

■令和4年度予算編成方針について

市長

令和4年度予算編成方針を策定しましたので、その概要をお知らせします。

本市の令和4年度の財政見通しは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会経済活動の停滞により、税収が落ち込む一方で、歳出では、引き続き社会保障費の伸びが見込まれることから、極めて厳しい状況になるものと考えております。

このような中であっても、令和4年度に初年度を迎える第2次総合計画後期基本計画をはじめ、各種計画に位置付けた施策を着実に推進し、本市の目指す都市像「人・まち・自然が調和する 活力都市とやま」を目指して、市民一人ひとりが誇りと希望を持てる予算となるよう、全職員が一丸となって、前例にとらわれることなく、あらゆる施策に創意と工夫を凝らして、予算編成に取り組んでまいりたいと考えております。

それでは、参考資料としてお配りしております「令和4年度予算編成方針」をご覧ください。この資料に沿ってご説明いたします。

1ページをご覧ください。

中段の「国の予算編成の動向」ですが、国の予算編成においては、高齢化等に伴う社会保障関係費の自然増や、グリーン社会、デジタル化、地方活性化等への予算の重点化を進めるため、「新たな成長推進枠」を設けた

ことなどにより、一般会計の概算要求総額は、111兆円台となり、4年連続で過去最大を更新しております。

また、金額を未定とする事項要求も多く、子どもに関する様々な課題への対応等については予算編成過程で検討すること、さらには、岸田政権が発足し、大型の経済対策が検討されているなど、国の動向を注視しながら予算編成を進めていく必要があります。

2ページをご覧ください。

次に、「富山市の財政状況」について申し上げます。

令和4年度の財政見通しは、まず、歳入のうち、個人市民税では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、給与所得、営業所得等が落ち込み、法人市民税では、法人税率変更の影響により、いずれも本年度収入見込みから減収になり、市税全体では新型コロナウイルス感染症発生前の水準に及ばないものと見込んでおります。

地方交付税につきましては、国の概算要求では、地方交付税の総額が本年度と同程度となっているため、本年度の決算額とほぼ同額を見込んでおります。

こうしたことから、市税・地方交付税等を合わせた一般財源総額については、伸びが期待できないということであります。

次に、歳出について主なものを申し上げますと、まず、義務的経費である、人件費、公債費、扶助費のいずれも増加を見込んでおります。

また、扶助費と同様の性格を持つ後期高齢者医療事業特別会計などの繰出金も増加を見込んでおります。

これらに加え、令和4年度からスタートする第2次総合計画後期基本計画をはじめとした、各種計画に位置付けた事業の着実な進捗を図ることとし、具体的には、道路、橋りょうなどの社会資本や公共施設の長寿命化対策、中規模ホールの整備や、大沢野・大山地域などの公共施設複合化事業などに取り組んでまいります。

これに加え、引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動を両立するための対策に取り組む必要があることなど、大きな財政

需要が見込まれ、令和4年度も極めて厳しい財政状況になるものと予想しております。

3ページをご覧ください。

「令和4年度予算編成の基本的考え方」について申し上げます。

財政の健全性を堅持するため、市税等の一般財源の確保に努めるとともに、聖域なき歳出の抑制を図り、見込みうる一般財源の範囲内で、予算の重点的・効率的な配分に努めること、また、市債の発行については、できる限り抑制し、発行する場合は、地方交付税措置等の財政支援がある市債を活用することとしております。

次に、事務事業のゼロベースでの見直しとして、聖域なき歳出の抑制を図るためには、スクラップ・アンド・ビルドや、毎年取り組んでいる事務事業評価など、あらゆる視点からの徹底した見直しを行うことを基本として取り組んでまいります。

4ページをご覧ください。

予算の重点的・効率的な配分についてですが、例年、当初予算の編成にあたっては、骨格予算の年を除き、毎年、重点施策を設定しております。

令和4年度の予算編成にあたっては、私が目指す「幸せ日本一とやま」の実現のため、次の5つの取組みを重点施策として設定します。

1 つに、子育て支援と次世代を担う人材育成の推進、2 つに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動の両立、3 つに、コンパクトシティの深化、スマートシティ、国土強靱化による安全で安心なまちづくりの推進、4 つに、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組みと産業活力の向上による稼げるまちづくりの推進、5 つに、あらゆる人・地域がつながるまちづくりの推進、この5つの取組みに対して、限られた財源の重点的・効率的な配分を行ってまいります。

なお、令和4年度当初予算は、通年予算として編成することとしております。

最後に、令和4年度予算要求基準について、申し上げます。

政策的経費については、一般財源ベースで、令和3年度当初予算額から、総合計画に位置付けられる事業についてはマイナス10%、総合計画以外の事業はマイナス25%のシーリングを設定しております。

5ページをご覧ください。

シーリングの枠外経費については例年どおりですが、扶助費や継続費、雪対策事業費などについて所要額としております。

次が、令和4年度予算編成の大きな特徴になりますが、今ほど申しあげました5つの重点施策に係る新規・拡充事業につきましては、「幸せ日本一とやま実現特別枠」を設定して、シーリングの枠外経費とし、所要額を要求可能とします。

その一方で、特別枠での要求を含む新規・拡充事業の要求にあたっては、スクラップ・アンド・ビルドを徹底し、要求1件につき、1事務事業の見直しを行うことを条件としております。

最後に、経常的経費につきましては、まず、義務的経費については所要額、事務・施設的管理経費は事業費ベースで、委託料は令和3年度当初予算額と同額、そのほかはマイナス2%の範囲内としております。

以上が、令和4年度の予算編成方針の概要です。

今回、「幸せ日本一とやま実現特別枠」を設定する一方で、総合計画以外の政策的経費については、これまでマイナス20%だったシーリングを25%に引き上げ、減額幅を大きくしております。

また、スクラップ・アンド・ビルドを徹底し、新規・拡充事業の要求にあたっては、1件の要求につき、必ず事務事業1件を見直すことを求めています。

例年より、厳しい予算要求基準を課しておりますが、税込等の大幅な増が見込めない中、新たなことに取り組むためには、どうしても財源の捻出が必要になり、既存の事業を見直すことは避けられません。

職員の皆さんには、既存の事業について今一度、徹底した検証を行って
もらい、事業効果が薄いもの、目的を達成したと思われるものは思い切っ
て廃止・縮小するというようお願いしております。

その上で、既成概念にとらわれない自由な発想で、新たな事業を積極的
に提案してもらいたいと思い、今回のような予算要求基準としたところで
あります。予算編成状況につきましては、今後も機会をとらえて報告して
まいります。

予算編成方針に関しては以上です。

■ 「とほ活アプリ」のグッドデザイン賞 2021 の受賞について

市長

本市では公共交通を活性化させ、その沿線に都市の諸機能を集積する
「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を政策の柱
に据え、様々な施策を展開するとともに、歩いて暮らせるまちづくりを推
進してきたところであります。

このため、本市では平成 31 年 3 月に、歩いて健康に暮らす新たなライ
フスタイルを推進するため「富山市歩くライフスタイル戦略」を策定しま
した。

そして、歩くきっかけづくりとなるスマートフォンアプリ「とほ活」を
令和元年 11 月から運用しており、本年 8 月には 1 万人の方に登録いた
くなど、このアプリを通して、歩くライフスタイルが着実に市民の皆さん
の中に浸透していると感じております。

このような中、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2021 年度
グッドデザイン賞」において、「とほ活アプリ」が、都市のスプロール化
(※) や高齢者の移動など、多くの地方都市が直面する課題に対し、徒歩
移動の促進のみならず、公共交通機関の利用、イベントへの参加など、様々
なアプローチで住民の行動を促す設計であること、さらには、これらが市
民の皆さんの習慣になった頃には、富山市が他の地方都市と一線を画する

状況になっているかもしれないと思わせた点が高く評価され、このたび、グッドデザイン賞を受賞したものであります。

(※) 都市のスプロール化…都市の急速な発展により、市街地が無秩序、
無計画に広がっていくこと

このことは、大変喜ばしく、光栄なことであり、今後、この受賞が契機となり、さらに歩くライフスタイルが推進されるものと考えております。

なお、本市の調べでは、自治体が開発したスマホアプリとしては、全国初の受賞となります。

今回の受賞を受け、グッドデザイン賞を受賞していることを示す証である「グッドデザインマーク」、通称「Gマーク」ですが、これを「とほ活」アプリの画面上に本日から掲載しております。

また、今回の受賞、及び「とほ活」アプリが本日でリリース2周年を迎えることを記念して、全てのユーザーの皆さんに500ポイントを進呈し、皆さんとともに喜びを共有したいと思います。

歩くことは、個人の健康増進や身体機能の維持といった健康面や医療面の効果のみならず、まちの賑わい創出や公共交通利用者の増加につながるほか、人と人との出会い、触れ合いの機会を生み出すなど、都市全体の活力向上に寄与する、多面的な効果を有しています。

今後とも「とほ活」アプリの普及をはじめ、様々な施策を推進することで、歩くライフスタイルへの転換を促し、将来にわたって市民の皆さんが健康で、幸せに暮らすことができる、活力ある都市の創造に取り組んでまいります。

■岩瀬地区におけるグリーンスローモビリティの運行社会実験 について

市長

富山市では、SDGs 未来都市として、持続可能な地域公共交通網の形成を目指して、環境にやさしく、低速で安全なグリーンスローモビリティを運

行する社会実験を本日、11月1日からの1箇月間、岩瀬地区において行います。

この社会実験により、高齢化が進む地域での地域内交通の確保や、観光地を回遊する新たな移動手段としての活用の可能性を検証するものであります。

今回、社会実験を行う岩瀬地区は、廻船問屋等の伝統的家屋の古い町並みが残る観光地であるとともに、住宅地でもあります。

そこで、このグリーンスローモビリティが、観光客だけではなく、車を自由に使えない方々の買い物や通院などのための移動手段として、観光と生活交通の両面からの活用が可能であると考え、地元の自治会や関係者の皆様のご協力を得て、今回、社会実験を行うこととなりました。

運行は、本日から11月30日（火）までの1箇月間行います。

平日は月曜日、水曜日、金曜日に運行し、地域住民の方々の生活の足となるようなルートとして、岩瀬カナル会館から、廻船問屋が並ぶ「大町・新川町通り」を經由し、ショッピングタウン北の森までの約2.5kmの区間を、午前9時30分から午後4時30分まで、約1時間間隔で運行します。

休日は土曜日、日曜日、祝日に運行し、岩瀬地区に観光で訪れる方々が主要な観光施設へ行くためのルートとして、岩瀬カナル会館から岩瀬中央公園までの約1.3kmの区間を、午前10時から午後4時まで、約30分間隔で運行します。

停留所を設けておりますが、休日については、廻船問屋が並ぶ「大町・新川町通り」の中は自由乗降区間となっており、停留所以外の場所からも乗降が可能です。

運賃は無料で、乗車定員は9人です。

天候や周辺の道路状況などにより、運行内容が変更となる場合がありますので、ご利用の際は、市のホームページ、又は専用のインスタグラム、フェイスブック、ツイッターでの確認をお願いします。

本市としましては、富山駅北地区や岩瀬地区をはじめ、今後、その他の地区でも社会実験を行うことで、新たなモビリティとしての課題や有効性

の把握に努め、今後のグリーンスローモビリティの本格運行につなげてまいりたいと考えております。

ぜひとも多くの方々にご乗車いただき、人と環境にやさしい、新たなモビリティを体感していただければと考えております。

■富山駅南北線及び富山駅西口交通広場（一般車乗降場）の供用開始について

市長

富山駅周辺地区では、北陸新幹線の整備を契機として、鉄道の高架化による「富山駅周辺地区南北一体的なまちづくり事業」を進めております。

令和2年3月21日には、まちづくりの1つの大きな到達点として、路面電車の南北接続事業が完成いたしました。

そして、このたび、駅の西側を南北で結ぶ新たな道路「都市計画道路富山駅南北線」、及び「富山駅西口交通広場」が完成いたしますのでお知らせします。供用開始は、11月20日（土）の午前5時を予定しています。

まず、「都市計画道路富山駅南北線」につきましては、全線延長470mのうち未供用区間170mについて、あいの風とやま鉄道の高架工事完了後に整備を進めてきました。

この富山駅南北線の完成により、路面電車での南北接続に続き、「道路の南北接続」が実現いたします。

周辺の牛島蛭川線や堀川線などの道路混雑の緩和が期待されるとともに、駅北エリアから中心市街地の商業施設などへ、また、駅南エリアからオーバード・ホールや富岩運河環水公園などへのアクセス性が飛躍的に向上し、南北間の移動が、より活発化することで、まちの賑わいや活性化に寄与するものと期待しております。

次に、「富山駅西口交通広場」についてであります。

現在、新幹線高架下部分で乗用車4台分を暫定供用しておりますが、停車スペースが少ないことから、一般車で駅にアクセスされる場合は、降車専用としてきたところであります。

このたびの、あいの風とやま鉄道の高架下部分の完成により、合わせて乗用車9台、送迎用バス2台分の停車スペースとなることから、降車だけではなく、乗車も可能な、いわゆる「キス&ライド」の交通広場として本格運用を開始いたします。

供用開始後、富山駅西口交通広場にアクセスする場合には、これまでの新幹線高架下付近の「富山駅西口（南）交差点」からではなく、あいの風とやま鉄道高架下付近の「富山駅西口（北）交差点」から入場することとなりますので、利用される皆さんにはご注意くださいと思います。

また、この西口交通広場の利用上の注意点として、車から乗り降りする時間以上の停車は出来ませんので、公共交通の到着を待つ場合などは、これまでどおり高架下の短時間駐車場をご利用いただき、乗車される方が乗降場にお着きになってから、車を移動していただくよう、お願いいたします。

限られた停車スペースですので、譲り合いの心を持って、利用される皆さんがお互いに気持ち良く使える乗降場となるよう、ご協力をお願いいたします。

■富山市民病院産婦人科妊産婦対象運動療法サポート事業について

市長

富山市民病院では、産後の母子を対象として、産婦人科の医師が講師となり、産後の体形変化や個々の状況に応じた適切な運動指導やエクササイズを行う講座を開設することとしました。

適度な運動やスポーツは、メンタルヘルスや生活の質の改善、生活習慣病の予防につながるなど、健康な生活を末永く続けていく上で推奨されております。

妊娠中や産後の母親においても同様に、メンタルヘルスの改善や将来的な生活習慣病の発症予防、骨盤帯痛や尿失禁の改善など、様々な効果が期待されております。

特に、新型コロナウイルス感染症が確認されてから1年半以上が経過し、いまだ収束が見込めない状況の中、妊娠中や産後のお母さん方におかれましては、外出の自粛により体を動かす機会が少なく、運動不足になるなど、健康維持に不安を抱える方も多い状況であると考えております。

このような中、富山市民病院では、産婦人科の医師の取組みとしては全国でも事例が少ないとされる運動療法サポート事業として、専門的な知識を提供し、医師の立場から、参加者に安心して無理のない運動を提案するとともに、乳児と一緒にエクササイズ等を行うことで、母子間の愛着を深めることや乳児の健全な成長を促すことなど、母子の健康増進に寄与することを目指しております。

今回の講座の対象は、1か月健診受診後から、概ね4か月までの乳児とお母さんとし、総曲輪レガートスクエア内にある「まちなか総合ケアセンター」において、毎週月曜日から木曜日まで実施している「ふれあい健康講座」のテーマの1つとして、今月24日から毎月第4水曜日に定期的を開催することとしております。

各回の定員は5人とし、事前に電話にて申し込みいただき、その申し込み順で参加者を決定することといたします。

内容は30分の構成で、有酸素運動やフロアエクササイズ、ストレッチなどのレッスンをを行い、レッスン後には参加者からの質問や、産後の体調不良に関する相談に個別に応じることをしております。

富山市民病院の産婦人科では、地域のかかりつけ医と連携し、きめ細やかな診療に努めておりますが、今後とも本事業と合わせて、妊娠、出産、産後等といった、それぞれのタイミングに応じた診療はもとより、女性のヘルスケアや健康増進に努めてまいりたいと考えております。

本日の私からの報告は以上であります。

■ 質疑応答

記者

昨日（10月31日）投開票された衆議院議員総選挙の富山県第1区、第2区の選挙結果についての受け止め、及び富山市発展のため、当選された方々に期待することをお聞かせください。

市長

昨日、行われた衆議院議員総選挙において、第1選挙区は田畑裕明氏、第2選挙区は上田英俊氏、そして比例代表で吉田豊史氏が復活当選されました。

この3人の方々は、それぞれ政治経験も豊富でありますし、今回の選挙に関しても、それぞれ熱意を持って活動されてきたとお見受けしております。

それぞれの皆さんには心よりお祝いを申し上げます。本当におめでとうございます。

その上で、まず、田畑裕明氏については、総務副大臣という要職を務めておられ、これは地方自治が担当ということでもあります。

富山市は、コンパクトシティ政策はもちろんであります。その深化と同時に、DXを活用したスマートシティの戦略を進めております。

そうした中であって、総務副大臣というお立場から、我々基礎自治体としっかり向き合って、スマートシティの推進に力を発揮していただきたいと大いに期待を申し上げるところであります。

上田英俊氏については、県議会議員歴22年の中で県議会議長も務められました。私も机を並べて、政策的なご指導をいただいた経緯があります。

（私と上田氏とは）本当に長い付き合いであり、（上田氏は）自民党富山県連において政調会長や幹事長等の要職も歴任されておりますので、本人が何よりも地域の方々の顔を見て、共に考えて、地域の課題を解決していくという政治姿勢を持っておられる方です。

地域の皆さんの声をしっかりと胸に（持ちながら）、今まで培ったものを国政の場で発揮していただきたいと思っております。

比例代表で復活当選された吉田豊史氏については、大変熱量の多い元気な方で、高い志を持っておられます。しっかりとした政策も打ち出されていますので、その政策を故郷富山と日本の発展のために実現させていただきたいと思っております。

いずれにしても、お三方ともにしっかりと活躍していただきますよう、期待しております。

記者

今ほどの衆議院議員総選挙の関係で、さらにお聞きしたいのですが、吉田氏には既に祝意を伝えられたのでしょうか。

市長

そうですね。先ほど市長室を訪れられましたので、「おめでとうございます。頑張ってください」ということをお伝えしました。

記者

その際、吉田氏からどのような発言がありましたか。

市長

(吉田氏からは)「がんばります。今後ともよろしくお願いします」ということでした。

記者

藤井市長と吉田氏とは約半年前の市長選挙で対決された間柄ですが、本市がエリアに含まれる選挙区から(吉田氏を含む)3人の与野党の国会議員が生まれたという中で、今後、どのように吉田氏と向き合っていられるお考えでしょうか。

市長

吉田氏に関して、(私自身は)叔父の吉田清治氏や、お父さんの吉田良

三氏に、大変お世話になったわけであります。

そして、（ご本人である）吉田氏とも、自民党所属の県議時代には、同じ釜の飯を食べていたという仲であります。

そういう長い付き合いもある中で、しっかりと腹を割って富山市発展のためにこういうことをしてほしいという要望もいたしますし、吉田氏からもいろいろな提案があると思いますので、地方のこと、富山市のことをしっかりと胸に持って、国政の場で頑張っていたいただきたいと思います。

記者

今回の選挙戦を通して、「富山を代表する国会議員は与党、野党に関わらず1人でも多い方がいい」という主張があった一方で、「1人でいい」という主張があって、ちょっとした論争があったと思います。そうした論戦の応酬についての市長の見解をお聞かせください。

市長

（市選出の国会議員の数については）少なくてもいいというものでもありませんし、多ければいいということでもないと思います。今回の結果はこれで良かったと思っていますので、この結果を受けて、それぞれが富山市のために頑張っていたいただければ幸いです。

記者

次に、今回の発表項目の1つである令和4年度予算編成方針について伺います。県の予算編成はマイナスシーリングを撤廃するという方針だったと思うのですが、富山市は逆に（マイナスシーリングの幅を）厳しく引き上げるということでした。その辺の考え方について、改めてお聞かせください。

市長

ご存知のように、収入の見込みが厳しい局面でありますし、超高齢社会や新型コロナウイルス感染症への対応、義務的な経費等も含めて、これまで以上に経費がかかっています。

例えば青少年の育成、学校教育等といった部分にマイナスシーリングをかけるということは非常に難しく、必要額をしっかりと手当するという形になっていくと思います。

一方で、限られた予算でありますので、どういうふうにスクラップ・アンド・ビルドしていくかということが大事であります。

収入の範囲内で、より効率的な予算配分をするということを心がけて、市民の皆さんのために、どの事業が一番良いのかというような観点で考えていきたいと思っています。

記者

富山市公設地方卸売市場の再整備についてお伺いします。一部利用業者の反発があり、当初の着工見直しを変更したということで、再整備を巡っては、いろいろな立場で複雑な利権関係が絡んでおり、反発される方の主張の全てに妥当性があるのかということ、なかなか難しい面もあるとは思いますが。

ただ、事実として、市の行う説明会が毎回紛糾して、なかなか本題に進めないという状況があり、今回着工時期を少し遅らせるということだと思いますが、市長として、この事態をどのように解決して前に進めていくのか、考えをお聞かせください。

市長

公設地方卸売市場は富山市民の台所であり、安全・安心の食材を市民に提供するという意味で、富山市にとって非常に大切な施設であると考えております。

その公設市場が老朽化して、耐震、耐火といった面で安全性が担保されないということがあり、さらに、大事な衛生面においても、昨今の基準になかなか合いにくいということです。要は古くなったということです。

流通が多様化し、かつての市場の取扱量に比べ、生鮮食品等でかなり（市場内の）取扱量が減少しております。

こうしたことを含め、市場の中で営業している業者数が減っているということもあり、（施設の）規模を縮小して余剰地を有効活用するということが今の市場再整備の考え方です。

そこで、我々富山市としては、数年前から市場内の事業者に対して、しっかりと説明しながら進めてきたつもりでありましたが、今回、PPP 事業（公民連携）ということで事業者が決まり、その（再整備）事業者と富山

市、市場内の事業者という三者の間で何度か話し合いが行われてきたというところであります。

そこで、今おっしゃった、（話し合いが）度々紛糾したということについては、紛れもなく意思疎通の無さがあったのではないかと思います。

富山市としても、今まで市場内で商売をされてきた方々にはしっかりと元気に市場の中で活躍していただきたいという思いが大前提であります。

我々のどこが説明不足で、至らない点だったのかということをご丁寧に聞きし、お互いに理解し合いながら、歩み寄れるところは歩み寄るという姿勢、市や再整備事業を担当される建設業者を含めた三者が腹を割って、お互いを理解し合うという姿勢が大事なのではないかと考えています。

繰り返しになりますが、そこで商売をしておられる方々が元気に、やる気を持って商売をしてもらわないと市場の元気が出ないと思うのです。

これが大事だと思うのです。

ですから、荷受（業者）なり、仲卸（業者）なり、小売（業者）なり、関連事業者の皆さんがおられますが、100%納得できなくても、概ね皆さんの理解を得ながら丁寧に進めていきたいと思っております。

記者

新田県知事が就任されて今月でちょうど1年になります。この新田県政の1年をどのように評価されますでしょうか。県政の成果や課題についてはどうお考えでしょうか。また、新型コロナウイルス感染症対策など危機管理対応がどうだったかという点についても所感をお伺いします。

市長

まず、（市長である）私が新田県知事の県政を評価するという立場にはありませんので、私の目から見てどう思うかという、評価ではなく、感想を述べたいと思います。

新型コロナウイルス感染症への取組みとしてメインとなるのは、やはり（感染）予防とワクチン接種だったと思います。

医療従事者から始まって、高齢者等、順次段階を経て、接種を進めていただいたという中で、このワクチン接種を含めた新型コロナウイルス感染

症への対応、県のアラート等の基準作りとその発信についてもそうでありますが、概ね順調に、一生懸命取り組んでおられるのではないかと拝見しております。

「ワンチームとやま」連携推進本部会議についても、ご自身の公約通り、各首長の声を生で聞き、これからの県政の課題を各首長と共有していきたいという思いのもと、しっかりと開催されておりますので、良いことだと思いますし、今後とも是非続けていただきたいと思います。

(新田県知事は) 民間経営者出身の方でありますので、新しい発想に長けていて、アイデアも豊富な方だと思っています。

富山市との関係について、ワクチン接種に関してもそうですし、先日の「ワンチームとやま」連携推進本部会議でも言ったのですが、ファシリテイマネジメントのように、各市町村が個別に取り組むよりも、県全体で考えていただいたほうが有効であるというような事業については、これからも、県が中心になっていただいて、我々も一緒に協力してやっていくという姿勢で臨みたいと思います。

(私から) いろいろな政策、施策について相談したり、知事からも「これについてはどう思いますか」というような話もあったりして、連絡は密に取っています。

記者

公設地方卸売市場の件についてもう少しお伺いします。先ほど意思疎通の無さという点をおっしゃいました。陳情書も提出されたと思いますが、今年4月になって、説明もなく、市場の代表者会議で検討されていた配置図が変わったというようなことを言う方もおられます。その辺はどのように認識されているのでしょうか。

市長

そこが正に意思疎通の無さなのだと思います。

(再整備) 事業者や富山市は1つずつ提示しながらやってきたと言っていますし、先方(一部の事業者)はわからなかったと言っているわけですよ

ね。そこでボタンの掛け違いが発生していると思います。

こういうものをなくして、丁寧に（話を）聞いていきたいということで、正に今おっしゃったようなことが発生していて、要望書も提出されています。

これもしっかりと受け止めて、出来ればお会いして、皆さんのお話を聞きたいと思っています。丁寧に進めたいと思います。

（公設地方卸売市場は）富山市にとって本当に大事な施設であります。また、皆さんの税金も投入する施設でありますので、しっかりと対応していきます。

記者

発表項目にありました「富山駅南北線」の開通について、個人的にも会社への通勤が便利になり、大変ありがたいと思っています。今、中規模ホール等、駅周辺の整備が進んでいる中で、路面電車の南北接続に続く、今回の「道路の南北接続」の意味合いや、このことによって今後、どのような効果が生み出されていくことを期待されるのか、お聞かせください。

市長

会社へ行くのが便利になってありがたいということを今ほどおっしゃいましたが、その通りなのですね。

今までは道路渋滞が発生していて、ものすごくストレスがあったと思うのですが、この富山駅南北線が開通することによって、例えば（駅）南から（駅）北へ行くときに、（市総合）体育館や（現在整備中の）中規模ホール、オーバード・ホールがあります。富岩運河環水公園や富山県美術館もあります。

そこで、「公共交通を軸に」と言っても、まだ、どうしても富山はモータリゼーション社会なのですね。

その辺を見越して、（発表項目として説明した）先ほどのグリーンスローモビリティもそうですが、車でもストレスなく移動できるという状況を作り上げることで、交通渋滞の緩和、そして、富山に住む方々の利便性といったものを考慮していきたいと思っています。

（この富山駅南北線の開通によって）これらが、今までよりもかなり改

善されると思いますので、ぜひ（そのことを）実感していただきたいと思
います。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課